
little grace

RAN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

l i t t l e g r a c e

【Nコード】

N 4 0 3 3 T

【作者名】

R A N

【あらすじ】

危険な地に赴く男性を、見送り、彼を想う女性の朝の一場面。

※サイト、dノベ転載

「おはよう、今日は早いね」

「ああ、おはよう。今日は早く出なきゃならないんだ。ご飯用意しておいたから。あと、コーヒーもね」

「ありがとう」

砂糖の加減が私好みになっている。彼は私のコーヒーの味をちゃんとわかってるのだ。

私はそのコーヒーを飲むと、とても幸せな気分になれた。そこに確かにある、小さいけど大きな幸せ。

「じゃあ、行ってくるから」

「いってらっしゃい……気をつけてね」

「ああ」

彼は笑顔で、玄関の扉を開けて出かけていった。

私はただ毎朝彼をこうして見送っている。

こんな風に見送れるのはまだいい方。

時には置き手紙だけの時もある。

彼はもしかしたら明日には生きてないかもしれないのに。

なぜなら、彼は自分の理想のために大きな敵と戦っているから。

今日の夜には、訃報を知らされるのではないかと、心は休まらない。

朝見送るたびに、私は張り裂けそうな思いを抱く。

そうして私は、いつも彼がいなくなった後、その場で泣き崩れ、彼が無事に帰ってくるのを祈るように待っている。

彼が帰ってくるまでには、泣いたことなどわからないようにしておく。

私は涙を見せることなく、また彼を迎えなきゃいけない。

そんな私に、友達は「よくガマンできるわね」と言う。

またある人は「彼は君にふさわしくない」と言ってくれる人もいた。

でもそれは違う。私はガマンはしていない。

彼が私にふさわしいとか、そういう問題じゃない。

私が彼を、欲している。誰よりも彼の愛を欲し、彼と共にいることを望む。

ただそれだけのこと。

だから私は彼の帰りをいつも待つ。

置かれた手紙を握り締めて、彼の口をつけたカップをそのままに残して。

明日も、彼と私は幸せでいるのだと願いにも近い思いを抱きながら。

今日も私は彼の帰りを待つ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4033t/>

little grace

2011年5月31日12時33分発行